§－3 荷　　重

イ）地　震　力

・地　域　係　数　　Z=　1

・地　盤　種　別　　第　2 種　→ Tc=　0.6　秒

・標準せん断力係数（許容応力度等）　一次設計時：Ci=Z・Rt・Ai・Co・Is　　二次設計時：Ci=Z・Co・Is

X方向：　Co=　0.2　　X方向：　Co=　1.0

Y方向：　Co=　0.2　　Y方向：　Co=　1.0

・一次固有周期　T=　0.077　（　略算　）

・建物用途係数　一次設計時　Is=　1.00　　二次設計時　Is=　1.00

・屋上突出物　h=　m

・地　　階　h=　m

ロ）積　雪　荷　重

・積　雪　地　域　の　分　類：一般区域　　・積雪荷重の取扱い：短期荷重にて扱う

・最　深　積　雪　量：　30.0　cm　　・雪の単位重量：　20.0　N/cm/m2

・勾配低減率：　1.0

設計用積雪荷重算定式

・積雪荷重 =　600　x　1.0　=　600 N/m2

ハ）風　荷　重

・風　圧　力：　w = q ・ Cf　　・基　準　風　速：　Vo =　30 (m/s)

q ：速度圧 (N/m2)　　・地表面粗度区分：　Ⅲ

Cf：風力係数

・速度圧　q = 0.6 ・E ・ Vo^2（建設省告示第1454号による）

E:当該建築物の屋根の高さ及び周辺の地域に存する建築物その他の工作物、樹木その他の風速に影響を与えるものの情況に応じて国土交通大臣が定める方法により算出した数値。

・E = Er^2・Gf

Er:下表の規定によって算出した平均風速の高さ方向の分布を表す係数

H が Zb 以下の場合	Er = 1.7 (Zb / ZG) ^α
H が Zb を超える場合	Er = 1.7 (H / ZG) ^α

H：建築物の高さと軒の高さの平均 (m)

Zb, ZG, α は地表面粗度区分に応じて下表により算出。

地表面粗度区分	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
Zb(m)	5	5	5	10
ZG(m)	250	350	450	550
α	0.10	0.15	0.20	0.27

Gf:ガスト影響係数で地表面粗度区分およびHに応じて下表より算出。

地表面粗度区分 ＼ H	(1) 10m以下の場合	(2) 10mを超えて40m未満の場合	(3) 40m以上の場合
Ⅰ	2	(1) と (3) に掲げる数値を直線的に補間した数値	1.8
Ⅱ	2.2		2
Ⅲ	2.5		2.1
Ⅳ	3.1		2.3

・風力係数 Cf = Cpe-Cpi（閉鎖型壁面）

Cep:建築物の外圧係数　・風上：　0.8 kz　　Cpi:建築物の内圧係数：　-0.2 及び　0

・風下：　-0.4

風圧力算出表（間柱、耐風梁、胴縁等二次部材用荷重）　設計速度圧 q =　645 N/m2

検討高さ (m)	設計GLからの地上高Z(m)	Kz	Cpe	Cf（風上）	Cf（風下）	風圧力 (N/m2)

建築物最高高さと軒高の平均値は　3.772 m